

平成24年度

事業報告

平成24年4月1日から

平成25年3月31日まで

公益財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会

はじめに

WCRP 日本委員会は、混迷する世界において、宗教者として平和の実現を目指し、国内外で人々が抱える諸問題に積極的に取り組むため、諸宗教間のネットワークや各界との協力を通じて、本年度の事業を実施した。

特に、平成 24 年 4 月 1 日付で公益財団法人に移行し、WCRP 日本委員会がさらに平和と調和への役割を果たしていくために、“より開かれ、より行動する WCRP 日本委員会”を目指して新たな組織体制をスタートした。

「共にすべてのいのちを守るための祈りと行動」の総合テーマのもと、①宗教者としての東日本大震災復興支援、②原子力エネルギーと現代文明について宗教者として問い続けること、③東アジアや中東地域の宗教者との対話交流の 3 つを重点的に取り組むサブテーマに据えて事業を推進した。

さらに、東日本震災復興事業を推進するための特別事業部門（タスクフォース）に加え、本年新たなタスクフォースを立ち上げ、核兵器廃絶・軍縮、国連ミレニアム開発目標（MDGs）、平和教育に関する事業の実施及び実施準備を行った。

また、「平和のための宗教者研究集会」や「平和大学講座」をはじめとする学習会を通して、平和に関する諸課題についての学びを深め、そのメッセージを幅広く発信した。

I. 事業部門

A. 諸宗教間の対話と協力を通じた平和のための活動と研究を推進する事業

(公1)

事業の趣旨（目的）

諸宗教間の対話により相互理解を深めるとともに、諸宗教間による協力・協働を基盤として、宗教者のみならず、不特定多数の人々に対して、平和を脅かす諸課題の解決のための活動を普及し、宗教の叡智に基づく平和構築のための啓発・提言活動を行うことにより、異文化間または国際的な相互理解の促進、世界平和の確立、より良い社会の形成、豊かな人間性の涵養並びに文化の向上に寄与し、ひいては世界の平和のために貢献する。

1. 諸宗教間対話・ネットワークを通じた宗教協力

(1) 諸宗教間対話・ネットワーク

全事業を通じて、仏教、神道、キリスト教、教派神道、新宗教団体、イスラーム、ヒンズー等をはじめとする宗教・宗派間の対話を促進し、平和のために協力するネットワークを構築した。

なお、平成 24 年度に予定されていた第 9 回世界大会は、平成 25 年度に実施が延期されることとなった。平成 18 年 8 月に第 8 回 WCRP 世界大会が京都で開催され、その後、平成 22 年頃より第 9 回世界大会についての検討が国際委員会において行われてきた。平成 23 年 11 月にモロッコ・マラケシュにおいて、中東・北アフリカ地域委員会が発足し、その発足式と合わせて国際執行委員会が開催された。その際、大会のテーマ、開催国並びに開催時期について協議された。特に、イスラームとの対話が世界的にも重要な課題であったことから、中東で開催することが提案され、平成 24 年 11 月にカタールで次回大会を開催することが最終案として承認された。その後、国際事務局によりカタールとの最終調整が行われたが、カタールにおける諸事情により困難となった。

次の案として、モロッコでの開催の可能性が模索された。モロッコ国政府との調整を進めていたところ、アメリカにおける預言者ムハンマドを冒瀆する映像が放映されたことから、反米の動きが北アフリカ・中東地域に広がり、モロッコ国政府から大会受け入れの正式許可を得るには至らなかった。

一方、サウジアラビア国王が主導し、諸宗教間・文明間対話のための取り組みが進められ、サウジアラビア国王の名前を冠する諸宗教間・文明間対話のためのセンターが平成 24 年 11 月に発足するに至った。諸宗教間の取り組みやセンター（KAICIID：アブドゥラー国王宗教・文化間対話のための国際センター）設立のために、WCRP 国際委員会が協力を求められ、サウジアラビアとの信頼関係が構築された。その結果、平和のために諸宗教が集い、共に協力するという共通の目的

をもつ KAICIID の支援のもとに次回 WCRP 世界大会を平成 25 年 11 月にオーストリア・ウィーンにおいて開催することとなった。

第 9 回世界大会の延期に伴い、平成 25 年に予定されていたアジア地域における大会であるアジア宗教者平和会議（ACRP）も 1 年延長し、平成 26 年に開催することとなった。

なお、平成 24 年度の事業は以下の通り。

①アジア宗教者平和会議（ACRP）執行委員会

期日：平成 24 年 6 月 13～14 日

会場：韓国・華嚴寺ゲストハウス

概要：アジア 16 カ国から、諸宗教指導者である 43 名の執行委員が参加し、平和教育センターの設立や軍縮・環境問題等についての議論が行われた。

②韓国宗教平和国際事業団（IPCR）国際セミナー

概要は、下記「(3) セミナー」の通り。

日本・韓国・中国の宗教者・学者が集まり「東北アジアにおける平和共同体の樹立と宗教の役割」をテーマとするセミナーが開催され、WCRP 日本委員会から 8 名が参加した。

また、平成 25 年 3 月 4～6 日、韓国宗教人平和委員会（KCRP）よりビュン事務総長はじめ関係者が来日し、平成 25 年度の同セミナーについての打ち合わせ・準備を行った。

③バチカン諸宗教対話評議会との会合

期日：平成 24 年 8 月 1 日

場所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

概要：同評議会名誉局長のピエル・ルイジ・チェラータ大司教並びに駐日教皇庁大使ジョゼフ・チェノットゥ大司教一行と、WCRP 日本委員会の代表者が懇談し、日本の宗教者とバチカンとの継続的な交流のあり方等について話し合った。

④比叡山宗教サミット 25 周年「世界宗教者平和の祈りの集い」

期日：平成 24 年 8 月 3～4 日

場所：国立京都国際会館（京都府京都市）・天台宗総本山比叡山延暦寺
（滋賀県大津市）

後援：WCRP 日本委員会

概要：以下のプログラムにベンドレイ WCRP 国際委員会事務総長はじめ関係者が参画した。

開会式「自然災害の猛威と宗教者の役割—— 3. 11 大震災と原発事故への
反省と実践——」

記念講演：梅原猛氏（哲学者）

シンポジウム「被災者に宗教者は如何に向き合ってきたか」
世界平和祈り式典

(2) 東日本大震災復興支援事業

平成 23 年 3 月 13 日、被災地支援のための「WCRP 東日本大震災緊急勧募」を開始し、平成 23 年 7 月には、復興支援のための特別事業部門（タスクフォース）を立ち上げた。12 月には、宮城県仙台市にあるせんだい・みやぎ NPO センター内に担当デスクを置き、スタッフを派遣し、少なくとも 5 年間復興支援を実施することを決定した。復興への取り組みの方針として、①「失われたいのち」への追悼と鎮魂、②「今を生きるいのち」への連帯、③「これからのいのち」への責任の 3 つを方針として掲げ、本年度も継続して、現地の宗教者や NPO 等の支援団体と連携し復興事業を実施した。

また、平成 24 年 3 月～5 月並びに平成 25 年 3 月～5 月の期間、『東日本大震災をけっして忘れない』ための祈りと行動」をテーマに、「WCRP 震災復興キャンペーン 2012」並びに同キャンペーン 2013 を展開し、復興支援募金、復興合同祈願式、復興支援ボランティア等を実施した。平成 24 年度の事業は以下の通り。

①復興に向けた宗教者円卓会議の開催

期日：平成 24 年 5 月 22～23 日

主催：(公財) WCRP 日本委員会

協賛：宮城県宗教法人連絡協議会

テーマ：復興に向けた宗教者円卓会議

—今後の WCRP による取り組みのあり方を考える—

場所：仙台国際センター

参加者：WCRP 関係者や被災地で支援活動に取り組む宗教者など 70 名

目的：被災地の地元の方々や支援活動をしている関係者の意見を傾聴し、今後の宗教者の支援活動のあり方に反映する。

概要：「震災と精神的ケア」、「地域コミュニティの再構築」、「社会的弱者とよばれる方々への支援」の 3 つの議題で話し合われた。

宮城県の岡部健医師が発題をした「震災と精神的ケア」では、震災によって近親者や生活基盤、コミュニティなどを喪失した人々への精神的ケアに際して、医療のみの対応では不十分であり、宗教者による取り組みが重要になってくると語った。また、被災現場で宗教者が活動する時に、宗教者が自らの宗派性のみとらわれることなく、宗教者の社会的な公共性を確保することが重要であると述べ、臨床宗教師などの資格の創設の必要性について言及した。

東北大学の鈴木岩弓教授が発題した「地域コミュニティの再構築」では、震災によってコミュニティが崩壊した地域で、宗教者がどう再構築に向けての取り組みをしていくべきかが議論された。宗教者は、行政などが実施するインフラの再構築ではなく、そこに住む人々の社会生活を支え、人々を結ぶソフトの側面におけるコミュニティの再構築に果たすべき役割が大きいとの話し合いが

なされた。

福島連携復興センターの江川和弥理事、遠野まごころネットの多田一彦代表が発題した「社会的弱者とよばれる方々への支援」では、被災地支援における現状やボランティアの役割の変化について語られ、被災者の自立や尊厳を守り、また復興に向けての夢、ビジョンをもった支援のあり方について話し合われた。こうした点をふまえ、宗教者こそ最も厳しい状況にある方々へ寄り添うことの重要性を共有した。

②復興支援ボランティア

期間：5月11～13日、5月25～27日、6月1～3日

参加者：約15名

概要：福島連携復興センターが受入れ団体となり、福島県・会津美里町の工業団地内にある応急仮設住宅で実施した。この仮設住宅には、檜葉町の住民178世帯、約600名（当時）が生活している。ボランティアは、仮設住宅で寝泊まりしながら、清掃、草刈り作業、プランターへの花植え、布わらじ作り、子どもたちとの触れ合い等を実施した。

③祈りと合同祈願式

平成24年並びに25年の3月11日～21日の11日間、14:46に1分間の黙とうを捧げた。祈りの最終日である平成25年3月21日には、岩手県山田町の山田八幡宮を会場に諸宗教合同で、「東日本大震災の追悼と鎮魂ならびに復興合同祈願式」を主催した。概要は、以下の通り。

日時：平成25年3月21日 14:00～15:00

場所：山田八幡宮（岩手県山田町）

参加者：WCRP 日本委員会役員・山田町宗教者など約150名

（仏教、神道、教派神道、キリスト教、新宗教、イスラーム等）

プログラム概要：

齋主（藺田稔 WCRP 日本委員会理事・秩父神社宮司）

宗教宗派別の祈り（8つの宗教宗派の代表者）

黙とう

④実践宗教学寄附講座

平成24年度から東北大学大学院文学研究科で開始された。各宗教の死に対する考え方や人々の悲しみ、苦しみなどに宗教者が取り組む上でのグリーンケア、緩和ケア、カウンセリングなどの手法を学ぶことを目的としている。WCRP 日本委員会は、同講座の運営委員として関わり、関係する宗教者も受講生として派遣した。

本年度は、平成24年9月と11月（3泊4日）、平成25年2月と3月（2泊3日）に実施された。

⑤三陸海の盆

NPO 法人遠野まごころネットと連携し、8月11日に釜石市で実施された「三陸海の盆」を支援した。被災地の鎮魂と追悼と早期復興を祈念し、三陸地方に伝わる伝統芸能や踊りなどが披露された。

⑥傾聴活動（カフェ・デ・モンク）ラジオ番組などの心のケアの取り組み
宗教者、医師、学者などが連携して進める心のケアで、WCRP 日本委員会も運営委員を務めている。

ラジオ番組「心の相談室」は、平成22年10月からはじまり、毎週宮城県 Date FM、エフエム岩手で放送し、53週にわたり宗教者・医師・カウンセラー・作家などの各界の著名人51名が出演。「共に生きる」というテーマで自らの信仰観や被災地の方々の心を和ませ、前向きに生きるためのメッセージを発信した。平成24年9月をもって一年間の放送を終了した。9月15日にはWCRP 日本委員会の前島宗甫理事（日本キリスト教協議会元総幹事）が出演した。また、被災地で傾聴活動を行う「カフェ・デ・モンク」（お茶のサロン）が月に2回のペースで行われ、常時約60名が参加した。

⑦福島の子どもプロジェクト「ツナガルキャンプ2012」

避難生活を送っている福島の子どもたちを公募し、遊びや自然学習、田舎体験、郷土料理作りなどを特定非営利活動法人寺子屋方丈舎と共催し、10月6～8日、11月23～25日に奥会津「昭和の森キャンプ場」で実施した。青年部会等の関係者・WCRP 日本委員会スタッフが運営スタッフとして参加した。10月には26名の子どもを含む約40名が、11月には35名の子どもを含む約50名が参加した。

⑧山田祭

9月15～17日に開催された岩手県山田町の「山田祭」に山田八幡宮と共に協力した。

⑨祈りと学びのつどい

10月5日、浄土宗愚鈍院において、宮城県宗教法人連絡協議会主催の同つどいにWCRP 日本委員会が協賛した。WCRP 日本委員会特別会員の三鍋裕氏（日本聖公会横浜教区主教）はじめ関係者が参加した。

⑩対話と音楽の集い「東日本大震災とこころの平和：3.11以降の『人間の安全保障』と宗教者」

NPO 法人「人間の安全保障」フォーラム、宗教者災害支援連絡会、東京大学大学院総合文化研究科の共催により、11月25日に東京大学で開催された同シンポジウムにWCRP 日本委員会が協賛。WCRP 日本委員会より杉谷義純理事長（天台宗宗機顧問）がパネリストとして発題した。

⑪FM ラジオ「東日本大震災メモリアル・シンポジウム『忘れないために』」
3月10日にエフエム仙台、FM大阪で、3月11日にTOKYO FMで放送されたこの番組は、2月22日に仙台メディアテークで開催された同シンポジウムの収録を放送したもの。「心の相談室」が主催し、WCRP日本委員会が協力した。WCRP日本委員会の前島宗甫理事が出演した。

⑫パネルディスカッション「東日本大震災と宗教者・宗教学者」
3月2日、東北大学で同パネルディスカッションが開催され、約100名が参加。東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座、京都大学こころの未来研究センター震災関連プロジェクト、宗教者災害支援連絡会が主催し、WCRP日本委員会が共催した。WCRP日本委員会より、黒住宗道理事（黒住教副教主）がパネリストとして発表した。

2. 講座

平和を脅かす諸課題について、宗教団体のみならず、不特定多数の人々がより深い理解を得るため、以下の講座を開催した。機関誌やホームページを通じて広報するとともに、その内容を掲載した。

(1) 第39回平和のための宗教者研究集会

期日：平成25年1月30日

場所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

参加者：約200名

テーマ：原子力エネルギーと現代社会——未来への責任——

プログラム概要：

開会挨拶（庭野日鏡 WCRP 日本委員会会長・立正佼成会会長）

趣旨説明（植松誠 WCRP 日本委員会理事・日本聖公会首座主教）

パネルディスカッション

眞田芳憲 WCRP 日本委員会理事・同平和研究所所長がコーディネーターを務め、山口幸夫氏（NPO 法人原子力資料情報室共同代表）、江川和弥氏（福島連携復興センター理事）、内藤新吾氏（日本福音ルーテル稔台教会牧師）がパネリストとして議論を行った。

宗教者からの応答

質疑応答

閉会挨拶（杉谷義純 WCRP 日本委員会理事長・天台宗宗機顧問）

(2) 平和大学講座

期日：平成25年3月13日

場所：八坂神社常磐新殿（京都府京都市）

参加者：約180名

テーマ：現代文明に生きる私たちに問われているもの
——知から智慧への転換をめざして——

プログラム概要：

開会挨拶（杉谷義純 WCRP 日本委員会理事長・天台宗宗機顧問）

基調講演（徳永洵大阪大学名誉教授）

パネルディスカッション

眞田芳憲 WCRP 日本委員会理事・同平和研究所所長のコーディネーターを務め、神戸女学院院長の森孝一氏、平和研究所所員の黒田壽郎氏（国際大学名誉教授）によるパネルディスカッションが行われた。

閉会挨拶（藺田稔 WCRP 日本委員会理事・秩父神社宮司）

(3) 震災復興祈念シンポジウム&コンサート

期日：平成 24 年 4 月 14 日

場所：東京大学弥生キャンパス（東京都文京区）

参加者：約 150 名

（宗教者、研究者、市民、避難生活をおくる福島県双葉町民など）

共催：WCRP 日本委員会

(4) 京都シンポジウム 2012

期日：平成 24 年 5 月 12 日

場所：ひと・まち交流館京都（京都府京都市）

参加者：約 200 名

テーマ：平和構築における先住民の智慧と女性の役割

協賛：WCRP 日本委員会

(5) 中東に関する学習会

期日：平成 24 年 7 月 11 日

場所：立正佼成会大聖ホール（東京都杉並区）

参加者：約 40 名

テーマ：中東における宗教者による貢献の可能性

——ヨルダンにおけるろうあの子どもたちへの取り組みを通して——

概要：ヨルダンにあるろうあの子どものための施設で、施設長として長年活動をしている聖公会牧師のアンドリュー・デ・カーペンター氏を講師に迎え、中東問題や宗教者による取り組みを学んだ。

(6) イスラームに関する学習会

期日：平成 24 年 10 月 16 日

場所：立正佼成会大聖ホール（東京都杉並区）

参加者：約 40 名

テーマ：米国におけるムスリム増加の背景と反イスラーム感情の中での諸宗教

間対話の実情

概要：米国のイスラーム指導者であるユースフ・エステス氏を講師に迎え、イスラームについて理解を深めた。

3. セミナー・スタディーツアー

宗教団体の指導者及び実務担当者をはじめ会員・関係者や関心をもつ人々が、平和構築に寄与するため、様々な宗教や異なる文化に対する理解や、国際社会の中で直面する諸問題への理解を深めることを目的として、以下のセミナーやスタディーツアーを実施した。

(1) 韓国宗教平和国際事業団 (IPCR) 国際セミナー

期日：平成 24 年 6 月 9 日～11 日

場所：韓国ソウル市内ホテル

テーマ：東北アジア平和共同体の構築の倫理的課題と実践方法

参加者：日本・中国・韓国の宗教者、学者、市民団体の代表など約 40 名

WCRP 日本委員会から、8 名が参加し、基調発題者、パネリスト等として発題し、議論に参画した。

プログラム概要：

全体会議

基調発題 (チョン・セ・ヒョン 円光大学総長)

「東北アジア平和共同体構築のための倫理的課題と実践方法」

セッション I

「政治的側面からみた東北アジア平和共同体の構築の倫理的課題と実践方法」

セッション II

「経済的側面からみた東北アジア平和共同体の構築の倫理的課題と実践方法」

セッション III

「社会・文化的側面からみた東北アジア平和共同体の構築の倫理的課題と実践方法」

全体会議 (まとめ)

内容は、機関誌「WCRP」7月号に掲載。また、昨年度の報告書を6月に発刊し、本年度セミナーの報告書を平成 25 年 8 月に発刊するため、翻訳・編集作業を行った。

4. 平和のための啓発・提言活動

(1) 核兵器廃絶・軍縮に向けた取り組み

①第 24 回国連軍縮会議

同会議は、「平和で安全な将来の構築——喫緊の課題と解決策」をテーマとし、

平成 25 年 1 月 30 日～2 月 1 日に静岡県静岡市で開催された。16 ヶ国から核軍縮に取り組む外交官、実務者、研究者、NGO 代表など 74 名が参加した。WCRP 日本委員会からは三鍋裕特別会員（日本聖公会横浜教区主教）ら 3 名が同会議に参画し、議論の中で、宗教者としてのメッセージを発信した。

②広島・長崎平和関連行事への参画

【広島】

平成 24 年 8 月 6 日早朝、広島県宗教連盟主催の祈りに参加し、その後広島市主催による「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に諸宗教の連合体として、松下日肆理事（本門法華宗大本山妙蓮寺貫首）はじめ出席した。

【長崎】

平成 24 年 8 月 7 日に、長崎県宗教者懇話会が主催する平和交流会に出席し、8 日には、原爆落下中心地公園で開催された第 40 回原爆殉難者慰霊祭に参列した。WCRP 日本委員会からは、三鍋裕特別会員（日本聖公会横浜教区主教）らが参加した。また、8 月 9 日、原爆落下中心地で行われた長崎市主催の「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参列した。

③核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）主催市民フォーラム・ノルウェー外務省主催「核兵器の人的影響に関する国際会議」

3 月 2～5 日にノルウェー・オスロ市内で開催された両会議に WCRP 日本委員会より三鍋裕特別会員（日本聖公会横浜教区主教）が参画し、「核兵器の壊滅的影響」をテーマとするセッションで発題した。また、外務省の国際会議では「核兵器の爆発による即時の人的影響」のセッションにおいて、発言し、宗教者としての意見を述べ、提言した。

④「2020 Vision」キャンペーン

2020 年までに核兵器廃絶を目指すために、平和市長会議が推進している同キャンペーンに対して、資金的な支援を実施した。また、平成 25 年 3 月 27 日には、松井一實 広島市長と会合を持ち、核兵器廃絶に向けた活動についての意見交換を行った。

(2) 国連ミレニアム開発目標（MDGs）達成のための取り組み

①「スタンドアップ・テイクアクション・キャンペーン」への協力

NGO のネットワークである「動く→動かす」が推進する同キャンペーンの後援団体として参画した。宗教団体を中心として、MDGs 達成を目的とする同キャンペーンの参画を呼びかけた。

②MDGs 達成とポスト MDGs に向けた国際シンポジウムの開催

不特定多数の人々が、MDGs に対してより深く理解するため、IMF・世界銀行年次総会の市民社会プログラムとして、以下の概要で実施した。

主催：国際協力 NGO センター（JANIC）、「動く→動かす」

後援：WCRP 日本委員会

期日：平成 24 年 10 月 13 日

場所：東京国際フォーラム（東京都千代田区）

参加者：約 130 名

テーマ：「包摂的経済の実現へ——ポスト 2015 に向けた市民社会の提起」
パネルディスカッション・質疑応答

③MDGs に関する学習会を開催

期日：平成 25 年 3 月 29 日

場所：立正佼成会大聖ホール（東京都杉並区）

参加者：24 名

テーマ：貧困の歴史を終わらせるために
——ミレニアム開発目標から次の目標へ——

講師：稲場雅紀 「動く→動かす」事務局長

5. 平和のための調査・研究

当団体に専門の研究機関として「平和研究所」を設け、平和に資する調査・研究を継続している。平成 24 年度は、以下に概要がある通り 7 回の研究会を開催した。

また、研究会の内容は、機関誌「WCRP」に掲載し、広く情報提供すると共に、書籍を毎年約 800 部発行し、宗教関係者・大学・研究所・図書館並びにマスコミ関係者に約 400 部を無料で配布している。報告書に関する詳細は、以下の「8. 広報活動」にある通り。

(1) 研究会

①第 1 回研究会

期日：平成 24 年 4 月 25 日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：黒田壽郎 WCRP 日本委員会平和研究所所員
(国際大学名誉教授)

テーマ：「共同体の重層構造と慈悲」

②第 2 回研究会

期日：平成 24 年 6 月 20 日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：山崎龍明 WCRP 日本委員会平和研究所副所長
(武蔵野大学教授)

テーマ：「本願思想における慈悲、利他について——平和の根拠としての慈悲、利他精神——」

③第 3 回研究会

期日：平成 24 年 7 月 30 日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：山田經三 WCRP 日本委員会平和研究所所員

テーマ：「第2バチカン公会議と解放の神学に基づく世界の平和」

④第4回研究会

期日：平成24年9月28日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：佐藤純一 WCRP 日本委員会平和研究所所員
（国際メタテクニカテクノロジー研究センター所長）

テーマ：「原発への諸視点と注目すべき市民運動の紹介」

⑤第5回研究会

期日：平成24年11月19日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：J・P・ムケンゲシャイ・マタタ オリエンズ宗教研究所所長

テーマ：「第2バチカン公会議後の教会変遷と諸宗教間対話の精神」

⑥第6回研究会

期日：平成25年2月12日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：ホアン・マシア WCRP 日本委員会平和研究所所員
（聖トマス大学講師）

テーマ：「諸宗教の対話と協力に関する国際会議に参加して」

⑦第7回研究会（合宿）

期日：平成25年3月26日～27日

会場：神奈川県箱根

発表者・テーマ：

－ 藪田稔 WCRP 日本委員会平和研究所所員
（京都大学名誉教授・秩父神社宮司）

テーマ「カオスとコスモス：神道神学の試み」

－ 西原廉太 WCRP 日本委員会平和研究所所員
（立教大学副総長・教授）

テーマ「聖公会の歩みと宣教課題」

6. 女性による平和活動

女性の特性を活かした平和活動を推進するための「女性部会」を設け、不特定多数の人々を対象として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会や、平和教育・倫理教育に資するため、青少年を対象としたいのちに関する意識調査などを実施している。

（1）いのちに関する学習会

不特定多数の人々を対象として、啓発活動の一環として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会を以下の通り開催した。

①第1回いのちに関する学習会

期日：平成24年7月23日

場所：幼きイエス会ニコラ・バレ修道院（東京都千代田区）

参加者：約 120 名

テーマ：いのちの教育

講演者：アルフォンス・デーケン 上智大学名誉教授・カトリックイエズス会
司祭

②第2回いのちに関する学習会

期日：平成 25 年 3 月 30 日

場所：立命館大学アカデミア立命 21（京都府京都市）

参加者：約 40 名

テーマ：沖縄から考えるいのちと人権

講演者：池尾靖志 立命館大学社会システム研究所客員研究員（平和学・国際関係論）

(2) いのちについてのアンケート

平成 23 年 3 月 1 日から 7 月末の期間、平和教育・倫理教育に資するため、15 歳から 25 歳の青年男女を対象に同アンケート調査を実施し、12 の学校・団体の約 1440 名からの回答を集計し、その結果のまとめ・分析を行った。さらに、平成 24 年度に宗教立ではない教育機関を中心として、第 2 次アンケート調査を実施した。平成 25 年度に分析結果のまとめと平和教育のための提案書を冊子として出版する予定で、そのための準備を進めた。

同アンケートでは、「いのち」に関連する 21 の質問が設定され、質問は、次の 4 つのカテゴリーに大別される。1 つは、「いのち」そのものについての考えに関するもので、「いのち」のイメージや、いのちを意識するときにはどのようなときか、また、自分の「いのち」について感じることなどが設定された。その中で、自殺したい、死にたいと考えたことがあるかどうかを問う質問を含め、青少年の自殺・自死についての意識を調査した。

2 つ目は、生死に関する質問である。「いのち」が、その時間的なつながりの中で、どのように考えられているかを問うため、生きること・死ぬこと、または死後の世界について質問が設定された。

3 つ目は、周囲の人との関係性の中での「いのち」のあり方についての設問となっている。身近な親しい人のいのち、または、他人のいのちについての設問や、親からの愛情の実感の有無などについての質問となっている。そこから、「いのち」の大切さを他者との関係性の中で、どう実感し、どう行動に表しているのかを調査した。

4 つ目は、「いのち」を大切にするための教育に関する設問である。学校あるいは親や周りの人から、「いのち」の大切さを学んだことがあるか、心に残っていることは何かを問うことで、「いのち」の大切さについての教育の現状を把握し、さらに、今後の平和教育や倫理教育の実践につなげるための質問が設定された。

(3) 宗教別学習会

各宗教についての相互理解を深め、諸宗教と平和に関する諸問題について学ぶため、以下の概要で実施した。

期日：平成24年11月5～6日

会場：奈良・京都

参加者：13名

プログラム概要：

聖徳宗中宮寺見学

天台宗護国山安国院出雲寺（毘沙門堂）訪問

講演 いのちについて（叡南覚範 同寺門主）

下鴨神社・本山修験宗総本山聖護院・本門法華宗大本山妙蓮寺を訪問し、各宗教・伝統についての学びを深めた。

(4) 被曝ピアノとヴァイオリンの語らい「今『いのち』と『平和』をみつめて」

期日：平成24年11月24日

会場：清泉女子大学講堂

参加者：約280名

協賛：WCRP 日本委員会女性部会

7. 青年による平和活動

青年の特性を活かした平和活動を推進するための「青年部会」を設け、宗教伝統や文化をより理解し、相互交流を図るため、サマーキャンプや日本と韓国の青年の交流などのプログラムを実施している。

(1) サマーキャンプ2012

各宗教についての体験学習や分科会を行い、相互理解を深め、諸宗教と平和に関する諸問題について学ぶため、以下の概要で実施した。

期日：平成24年8月24～26日

会場：孝道山本仏殿（神奈川県横浜市）・孝道教団葉山練成道場（同横須賀市）

参加者：41名（15教団）

テーマ：Heart to Heart——これから私たちができること from 葉山——

プログラム概要

《1日目》

開会式

教団紹介

《2日目》

修行体験（五体投地礼）

講演：「クローバーのこころ——復興への祈り——」

（高橋伸実 「ひのきしん」・天理教松山町分教会）

グループ討議

《 3 日目 》

孝道教団正式参拝

講演：岡野正純 孝道教団統理

閉会式

(2) 公開学習会

期日：平成 25 年 3 月 9 日

場所：イエズス会岐部ホール（東京都千代田区）

参加者：約 30 名

テーマ：宗教者に託されたもの

講演者：高橋悦堂 曹洞宗円通山普門寺副住職（宮城県栗原市）

(3) 日韓青年交流プログラムの準備

日本と韓国の青年交流は、2年に1度実施し、交互に日本と韓国を訪問している。各国 20～30名の青年が参加し、ホームステイや分科会、現地の宗教施設訪問などを通してそれぞれの国の文化や宗教を学び、相互理解を深めている。平成 24 年度に実施する予定であったが、東日本大震災の影響や韓国からの日程変更の申し入れにより、平成 25 年に実施することとなり、そのための準備・調整を行った。

(4) 青年リーダーセミナー

3月20～21日、岩手県釜石市・大槌町・山田町で同セミナーを開催し、青年部会幹事ら9名が参加した。NPO法人AMDA大槌健康サポートセンターを訪問し、また、WCRP日本委員会が取り組んでいる東日本大震災復興事業についての学びを深めた。さらに釜石市鶴住居地区防災センターで慰霊を行い、鎮魂と追悼の祈りを捧げた。

8. 広報活動

当団体の事業等を広く一般に周知し、国内外の宗教状況、諸宗教の対話、国際社会が直面する平和を脅かす諸課題に関する情報などを広く一般に提供するため、以下の広報活動を行った。

(1) マスコミ関係者との情報交換

① プレスリリース

平成 24 年度は、17 のプレスリリースを発行し、マスコミ関係者等に送付した。

② 記者懇談会

平成 24 年 10 月 5 日、京都市内において、京都記者クラブを中心とした宗教関係の記者の方々と記者懇談会を開催した。約 15 名の記者が参加し、震災対応、次回世界大会のあり方、WCRP 日本委員会の平和に向けての取り組みなどについて意見交換を行った。

(2) ホームページ

ホームページを通して、事業の成果報告や告知を行った。随時データ更新するとともに、より分かりやすくなるようデザインを変更した。また、ホームページを通じて、広く一般に学習会等への参加をよびかけ、その申し込みの受付を行い、市民からの問い合わせに対応した。

(3) 出版

①機関誌「WCRP」

毎月 3,000 部発行し、会員のみならず、宗教関係者・大学・研究機関・図書館・国連や NGO 関係者並びにマスコミ関係者等、約 2,000 部を無料配布した。また、ホームページ等を通じて広報し、申込者に対し、年間購読料 1,000 円で送付した。

②平成 23 年度活動報告

平成 24 年 9 月に、平成 23 年度活動報告を 3,000 部発行し、WCRP 日本委員会関係者・賛助会員のみならず、NGO/NPO、国連機関、図書館、マスコミ関係者等に、2,600 部を無料配布した。

また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に無料で提供した。

③婦人部会 30 周年記念誌「悲母 30 周年を迎えて」

これまでの女性の特性を活かした活動をまとめた報告書を平成 24 年 5 月、500 部発行した。

機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に無料で提供し、一般市民への情報提供を実施した。

④「イスラーム指導者会議」報告書

平成 22 年 9 月に行われた「イスラーム指導者会議——正しいイスラーム理解のために——」等の内容や成果をまとめた報告書を 1,500 部発行し、関係者のみならず、宗教者・大学・マスコミ関係者などに約 200 部を無料で配布し、また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に頒価（700 円）で提供し、一般市民への情報提供を実施した。

⑤書籍「平和のための宗教 対話と協力 6」

第 1 部は、平成 23 年 9 月に開催された平成 23 年度平和大学講座「現代文明に宗教者はどう関わるか——原発問題を契機として——」を特集し、第 2 部では、平成 23 年度に実施された WCRP 日本委員会平和研究所の研究会での研究発表を収録した。

平成 24 年 12 月、800 部発行し、宗教関係者・大学・研究所・図書館並びにマスコミ関係者に約 400 部を無料で配布した。また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に頒価（800 円）で提供し、一般市民への情報提供を実施した。

⑥書籍「韓国宗教平和国際事業団（IPCR）国際セミナー2011」

平成 23 年に実施された同セミナーの報告書を平成 24 年 9 月に発行し、ホームページ等を通じて広報した。

⑦「第 39 回平和のための宗教者研究集会」報告書を発行するための準備をした。

II. 法人運営部門

1. 法務に関する業務

(1) 内閣府への報告等及び登記事務他

(2) 法人に関する業務

①公益財団法人としての登記（平成24年4月1日）

2. 会議に関する業務

(1) 評議員会

－第1回評議員会

期日：平成24年5月17日

会場：明治神宮文化館（東京都渋谷区）

－第2回評議員会

期日：平成24年6月27日

会場：浄土真宗本願寺派宗務所伝道本部（京都市下京区）

－第3回評議員会

期日：平成24年11月1日

文書持ち回り

－第4回評議員会

期日：平成25年1月30日

会場：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

(2) 理事会

－第1回理事会

期日：平成24年4月18日

会場：妙智會教団（東京都渋谷区）

－第2回理事会

期日：平成24年6月6日

会場：カトリック東京カテドラル東京大司教館（東京都文京区）

－第3回理事会

期日：平成24年10月5日

会場：北法相宗大本山音羽山清水寺大講堂（京都市東山区）

－第4回理事会

期日：平成25年1月30日

会場：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

－第5回理事会

期日：平成25年3月13日

会場：八坂神社常磐新殿（京都府京都市）

- (3) 評議員選定委員会
期日：平成 25 年 1 月 17 日
会場：東京・普門館（東京都杉並区）

- (4) その他諸会議の運営及び記録他

3. 監査に関する業務

平成 24 年 5 月 30 日に実施

4. 財務に関する業務

- (1) 資産運用及び管理に関する業務
- (2) 経理、会計、記帳計算に関する業務

5. 文書管理に関する業務

各種文書の作成、提出、管理及び保管他

6. 人事及び福利厚生に関する業務

勤怠管理、安全衛生及び福利厚生他

7. 庶務に関する業務

- ① 什器備品、印刷物、公印等の管理他
- ② その他どの部門にも属さない事項の処理他

平成 24 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以 上

平成 25 年 6 月 3 日

公益財団法人 世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会